

園長先生の話のくずかご (184)

孫は来てよし、帰ってよし

孫とのかかわりでよく語られる言葉ですが、本当にその通りでした。名古屋に住む息子一家が連休を使ってしばらくぶりに帰ってくるということになり、楽しくにぎやかで少し骨の折れた4日間でした。幼稚園年中5歳の長女、満3歳入園で11月から園児となった次女、1歳2か月でよちよち歩きですが声の大きさは一番の三女を連れての移動、パパは仕事が終わってから来るということで、家内が東京駅まで迎えに行きました。

まだ三女が生まれる前に一緒に暮らしていた時期があり、大きなベッドなどは置いたままになっていたり、部屋もそのままですが、「客人」を迎えるためにはかなり前から天気の良い日を選んでふとんを干したり、部屋を掃除したりの準備もしました。滞在中のスケジュールも考えてもみましたが、特にどこかに連れて行ったり特別なことをするよりもふだんとそれほど変わらない方がかえっていいかとも考えました。でもこの機会に都内に住んでいる二男一家、近くにいる三男一家も子連れでやってくることになり、なんだか一足さきにお正月がくるような感じです。

前日には着替えの詰まった大きなダンボール2箱が先遣隊として到着。金曜日の夕方、仕事から帰宅するとにぎやかな声が聞こえてきました。無事に到着して子どもたちは早速遊びを繰り広げていました。孫たちには夏休みに会って以来です。いろいろとお話もしてくれて、元気な様子が分かりました。三女はちょっと目を離すと階段を途中まで登っていてびっくり、姉たちにもまれてたくましく育っているようでした。

翌日は夕方三男一家がやってきました。孫のなかの唯一の男の子と初めて会う三人娘。にぎやかさが一段とアップし、鍋料理を中心にした夕食風景はなかなか味わえないものでした。三日目には次男一家がやってきました。今度は女の子たち4人、保育園に通っている孫は集団生活にも慣れているのか、すぐ打ち解けて一緒に遊んでいます。みんなでピアノのある部屋に集まってミニ幼稚園が始まりました。「やきいもゲーチョコキパー」の歌はみんな知っていて大きな声で歌います。ソファの上はトランポリンに早変わり、歌いながら元気よくジャンプ。「山のおんがくか」の歌は手振りも交えて歌ってくれました。なかでも一番のお気に入りには「となりのトトロ」、アニメの中で歌われているいろいろな曲もよく知っていて、一曲終わると次のリクエスト。楽しい一日でした。

連休最後の日はいよいよ帰る日です。一生懸命荷づくりをしていたダンボールを先に郵便局へ送り出してから、一家は川越駅から昼前に帰っていきました。嵐のようでもあり、夢のようでもあった4日間が過ぎました。家の中はひっそりと前にもどりました。孫たちの残した置き土産が余韻となって心に残っています。いっぱい元気をもってきてくれたんだという気もしました。園児のご家庭の中には冬休みに故郷に子連れで帰る方も多いと思います。幼児だからこそできるいっぱいの笑顔と元気な姿は何よりものお土産です。どんどん成長している姿を見せてあげてください。きっとお年玉の成果も上がることでしょう。

(園長 野澤達也)